

乾小天守

乾小天守は、石垣の基礎から約 13.9m の高さに建つ外 3 階、内 4 階の木造建築である。「乾」とは「北西」を意味するが、この建物は大天守の真北に位置する。「北」という字には「負ける」「退く」という意味もあり、それを避けるためにあえて誤記したのかもしれない。

乾小天守は大天守と多層式の渡櫓でつながっている。これら 3 つの建築物は、松本が石川家によって統治されていた 1594 年に完成した。松本城の入口は、大天守と乾小天守の間にある渡櫓の 1 階部分にあり、この配置は戦略的に有利である。大天守と乾小天守の間に位置するため、侵入しようとする敵は三方から火縄銃で攻撃されることになる。

大天守と同時期に建てられた乾小天守だが、いくつかの特徴的な点がある。大天守の柱が四角いのに対し、乾小天守の柱は丸いものが多いのだ。その理由は不明だが、近隣の寺院や家臣の荘園から柱を取り寄せたか、大天守閣を早く組み上げるために柱の形を整える作業を省略したか、あるいは大天守の大工とは別に乾小天守を築いたか、などの説があるようである。乾小天守の柱は、斧で荒々しく仕上げられ、魚の鱗のような独特の模様がある。